



指揮者プロフィール



矢崎 彦太郎
Hikotaro Yazaki
指揮
Conductor

上智大学数学科で学んだ後、東京芸術大学指揮科へ再入学。金子登、渡邊暁雄、山田一雄各氏に指揮法を学んだ。

1970年より2年間日本フィル指揮研究員として小澤征爾氏の助手を務め、あわせて秋山和慶氏にも教えを受ける。

72年東京ユース・シンフォニー・オーケストラのスイス演奏旅行に指揮者として同行、以降ウィーン、ローザンヌ、ロンドン、パリと移り住み、その間スワロフスキー、コシュラー、フェラーラ、チェリビダッケ、デルヴォーに師事した。

75年ブザンソン国際指揮者コンクールなどに入賞を果たし、同年、ボンマス交響楽団定期演奏会を皮切りに本格的に指揮活動を開始。これまでに、ロイヤル・フィル、BBC響、バーミンガム市響、リヨン管、ノルウェー放送管、トゥールーズ室内管、スイス・ロマンド管、フランス国立放送フィルなどを指揮している。79年には東京交響楽団定期演奏会を指揮し日本でもデビューを果たした。また、ダニエル・ルスジュール作曲「オンディーヌ」の世界初演でオペラにも活動の場を広げて以来、ボルドー歌劇場、二期会、関西二期会にも招かれている。

これまでに、東京交響楽団指揮者、ノルウェー国立放送管弦楽団(オスロ)首席客演指揮者、旧西ドイツのホフ交響楽団の音楽監督・首席指揮者、フランス国立トゥールーズ室内管弦楽団首席客演指揮者、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団首席客演指揮者、バンコク交響楽団音楽監督・首席指揮者、ジャカルタのヌサンタラ交響楽団音楽監督などを歴任。

現在は、2010年よりバンコク・シルパコン・サマー・ミュージック・スクール・ミュージック・アドバイザー、15年よりバンコク・プロムジカ・オーケストラ客演指揮者を務めている。

長年にわたる日仏音楽交流への貢献に対し、2000年フランス政府より芸術文化勲章シュヴァリエを、08年には同オフィシエ勲章を受勲。02年エクソンモービル音楽賞奨励賞を受賞。2012年度文化庁「文化交流使」。パリ在住。



オーケストラプロフィール



九大フィルハーモニー・
オーケストラ
Kyudai Philharmonic
Orchestra

九大フィルハーモニー・オーケストラは、九州大学と福岡市近郊の大学の学生で構成される日本でも有数の永い歴史と伝統を持つアマチュアオーケストラである。現在、100名以上の現役部員が所属し、アクロス福岡シンフォニーホールにて開催される年2回の定期演奏会を目標に、精力的に活動している。1909年に九州大学の前身である福岡医科大学の榎保三郎氏によって創立され、以降、石丸寛氏や荒谷俊治氏、堤俊作氏を指揮に迎え、発展を遂げてきた。

1924年には皇太子時代の昭和天皇ご成婚を祝す「摂政宮殿下御成婚奉祝音楽会」にてベートーヴェン/交響曲第9番「合唱」第4楽章を演奏。一説に日本初演と言われている。さらにはメンデルスゾーン/交響曲第4番「イタリア」やハイドン(L.モーツァルト)/交響曲「玩具」などの日本初演を果たすなど、明治から大正時代にかけての日本のオーケストラを牽引してきた。

2009年には九州大学に先立って創立100周年を迎えるとともに、永年にわたる音楽文化の向上や地域文化の振興に大きな役割を果たしていることにより、福岡市民文化功労賞を受賞。2014年には鈴木優人氏を九大フィル初代ミュージックアドバイザーに迎え、さらなる活動の充実を図っている。2018年には200回を数える定期演奏会を記念し、東京のサントリーホールにて特別記念演奏会を開催した。

定期演奏会の他にも、箱崎水族館喫茶室での毎月のクラシックセッション(アンサンブル演奏)への参加や九大祭での音楽喫茶の出店、幼稚園での創作オペラ上演など、地域に根差した文化活動を展開。官公庁や企業、学会からの依頼による出張演奏なども行っており、福岡県内の様々な場所において幅広い音楽活動を行っている。

《アクセス》 アクロス福岡 シンフォニーホール

西鉄福岡天神駅から徒歩10分
地下鉄空港線天神駅から徒歩5分(16番出口)
地下鉄七隈線天神南駅から徒歩7分(5番出口)

